

Ⅲ 全体のまとめ

はじめに

カレッジ・コミュニティ調査は、かつて総合教育研究室が長年取り組んできたものであり、2010年からは高等教育推進センターが引き継ぐこととなった。旧来の調査は「研究室」主体の「研究」であったため、経年データの蓄積を重視しており、第17回も基本的にはその方針に則って調査項目を設定している。しかしながら、本センターが「教育推進」を目的とする組織である以上、この事業も早晚、センター設立の趣旨に即応したものへと発展させなければならぬ。よって、次期のカレッジ・コミュニティ調査については、内容を全面的に見直したうえで実施したいと考えている。今般、関西学院大学はIRコンソーシアムに参加することとなり、いよいよ総合的な学習支援に取り組んでいくわけだが、その施策立案のための基盤となるのが学生の実態調査であることは言うまでもない。今後は、先進的な取り組みをおこなっている他大学の状況にも目を配りながら、教育推進に積極的に生かせるような基礎データを収集するための、新たな調査方法の確立を目指していきたい。

なお、上記の観点から、今回のカレッジ・コミュニティ調査は旧来の方針を受け継ぐだけでなく、新たな方針を模索するための試行を兼ねることとした。具体的には、入試種別の調査（一般入試・センター入試・推薦入試ほか、いずれの選抜方式を経て入学したのか）や、GPA調査を盛り込んだことがそれに当たる。ここに卒業生調査（第3回まで実施済み、高等教育推進センターの業務）を加えれば、まさに入口から出口までを押さえた「総合的な学習支援」のための第一歩となるだろう。ただし、被験者が実際にどの科目を履修したのか、より詳細な調査を敢行しなければ、完全なマネジメントは実現できないわけであり、その点で従来どおりの無記名調査では限界がある。これを可能にするための本格的なIRデータ収集用の調査と、従来の在学生調査とをどのように並行させていくかが、IR導入に舵を切った現在の検討課題である。

また、新方式への転換をはかるにあたっては、これまでのカレッジ・コミュニティ調査の総括も欠かせない。本報告書には、「1. 入学動機」「2. 大学生活の実態」「3. 目的意識・価値観および適応」「4. 大学施設」「5. 大学生活の充実度・評価」「6. 大学環境の認知」という6つの角度から、過去のデータと第17回の結果を比較した分析内容が記載されている。詳細はそれらに譲ることにして、この「全体のまとめ」では特徴的な傾向や、今後の検討課題などを拾い上げることとする。

1. 男女差の問題

今回の調査票の回収率は24.6%（1,101件）であった。この数値は前回とほぼ同じであり、およそ4人に1人が応じるというのが、現代の学生の標準なのだろう。できれば第10回以前のような40%を超える回収率を達成し、精度の高いデータを集積したいところである。そこで、改善の余地を探るべく回収状況を検証してみると、男性の回収率が19.5%、女性の回収率が30.2%となっている点が目を引く。男女間で10ポイント以上の開きがあるのは、従来どおりの傾向ではあるが、

この差を少しでも縮めることで全体の回収率を向上させられないものだろうか。

その対策は今後にゆだねるとして、ここで確認しておきたいのは、大学生活のさまざまな局面で男女間の積極性の温度差が浮き彫りになっている点である。例えば、「履修科目すべて出席」（Q2-2）は、男性65.6%に対し、女性76.1%であった。学部別で比較した場合、教育学部や文学部の数値が高いのも、所属している女性の絶対数が多いからだろう。これとは対照的な、男性の一部に見られる「出席をとらない科目は休む」という姿勢は、おそらく「無記名調査には協力しない」という反応とも通底するのではないか。いずれにせよ、アルバイトをしている学生の内訳にしても、わずかながら男性の方が少ないようであり（Q3-5）、「在学中にしておきたいこと」（Q5）に「海外留学」を挙げている人数の割合も、男性（20.0%）が女性（27.3%）を下回っていた。実際に海外留学経験がある学生の数を調べたところ、男性は459人中45人（9.8%）であったのに対し、女性は635人中157人（24.7%）と、顕著な違いを見せていた。さらには、「学生生活の充実度」（Q1）や「心理的不適応」（Q13）にも、多かれ少なかれ男女間の差が表れていたことを付言しておく。

以上のように、女性ほどには「やる気」を発揮できない男性が少なからず存在するようであり、彼らのモチベーションをどのように高めていくか、物事に熱意をもって真剣に取り組む姿勢をどうやって身につけさせるかは、これからも大きな課題であり続けるだろう。思うに、「鉄は熱いうちに打て」の言葉どおり、初年次教育が鍵となるに相違ない。希望をもって入学してきた学生たち（もちろん男性ばかりでなく女性も含めて）の「やる気」を失わせないこと、そうした一種のボトムアップによって、お互いが良い刺激を与え合えるような学生のコミュニティが自然に形成され維持されていくことを、大学側は後押ししていくべきである。今回の「心理的不適応」（Q13）の調査では、学年が上がるにつれて不適応傾向が緩和するという一般的な傾向に反して、2年生が1年生よりも不適応度が若干高くなっていた。この結果を真摯に受け止めて、初年次教育の充実など、将来にむけて有効な策を講じることが必要である。

2. GPA調査の意義

IRを念頭に置いて導入したGPA調査は、想像以上にいろいろな知見を与えるものであった。とくに興味深いのは、GPAが低い学生ほど、履修登録講時数が多いという傾向である（Q2-1）。3.00以上の学生は平均10.4講時であるのに対し、1.00未満の学生は13.4講時であった。一概には言えないかもしれないが、ひとつの見方として、後者の学生は履修分のいくつかが単位不認定になってもよいように、あらかじめ余分に登録をしているということではないだろうか。だが、そうした過重負担は結局息切れにつながる。ここに出席率低下の一因が潜んでいる可能性が考えられよう。GPA3.00以上の学生が「すべての履修科目に出席する」割合は95.1%であるが、1.00未満の学生の場合は33.3%となっている（Q2-2）。成績不振が学ぶ意欲の減退を引き起こし、「質より量」とでも言いたげな履修計画に至らしめているのだとすれば、彼らはさらなる悪循環に陥りかねない。学習効果を上げるには、むやみに多くの科目を受講するよりも、腰を据えて集中的に学ぶことが重要である。現在、各学部では学年およびセメスターごとの履修単位上限数が定められているが、GPAに応じた履修モデルをわかりやすく示すといった対応をとることも、今後検討に

値するだろう。

また、課外活動に関しても、GPA1.00未満の学生には注目すべき傾向が見られる。クラブやサークルに打ち込んでいる者、アルバイトにいそんでいる者がいる一方で、それらとは無縁の者もかなりの割合を占めているのである（クラブ・サークルなし46.4%、アルバイトなし53.6%）。物事に意欲的に取り組む習慣がない一部の学生は、学業にもあまり熱が入らないということではないか。さらにいえば、サークルやゼミを通じて確かな人間関係を築くことについても、一般の学生に比べて困難になりがちであり、結果的にレポートや試験への対策（必要な情報の入手）が後手に回ることがあるようだ（Q17）。GPA調査から見えてきた、こうしたさまざまな傾向については、今後さらなる分析が必要であり、どのように学習支援の方策を立てていくか、検討課題は山積していると言えよう。

3. 新設学部の傾向

本学では2008年に人間福祉学部が、2009年に教育学部が、2010年に国際学部が創設された。これらの新設学部には在籍する学生の実態については、過去のデータの蓄積がないため、今後の動向が注目される。ただし現時点においてすでに、国際学部生の「在学中にしておきたいこと」（Q5）の回答が「海外留学」に集中していること（75.6%）や、「留学生や外国人教職員との接触」（Q20）が高い数値を示していること（86.0%）など、学部の特性は表出しているようである。教育学部生が文学部生と同じく、「一般的な教養」を身につけたいと考える傾向にあることも、やはり学問領域の性格に由来するのだろう。

教育学部のある聖和キャンパスのアメニティのうち、とくに食堂に関しては不満が大きいことが窺えた（Q24）。また、総合図書館の利用についても、必然的に教育学部生は来館の機会が少なく、「先生のお薦めの本コーナー」などは、あまり知らなかったようである（Q19）。その一方で、図書館のオンラインサービスの利用経験に関しては、学部間の差が認められなかった。食堂や教室そのほか、あらゆる環境面でキャンパス間の格差を埋めることが、今後も引き続き重要課題となるだろう。

なお、「関西学院での学生生活が将来役立つか」（Q15）という質問項目に対し、新設学部の学生は肯定的回答を寄せる割合が高かった。これは非常に興味深い。いかなる要因が考えられるのか、そしてそれをいかにして他の学部でも実現するか、後考を期すこととする。

おわりに

今回の調査にあたっては、教務部・入試部・学生部など、学内のさまざまな部局に協力を要請し、質問項目の見直しはもちろんのこと、本報告書の作成までも分担していただいた。おかげで、それぞれの部局ならではの視点から、数々の有意義な提言を得ることができた。この場を借りて、関係者の方々の尽力に感謝申し上げる次第である。

大学入試のあり方が多様化し、新卒者の就職状況が厳しさを増すなど、大学生を取り巻く環境は年々様変わりしている。学習活動における携帯端末の利用や、SNSの普及も大きな変化である。そうしたなかで、いまの大学生の実情に照準を合わせた調査を将来おこなっていくためには、

学生とじかに接する各部局との連携体制がますます必要になってくるのではないか。今回、調査実施の準備段階で連携の足がかりを築くことができたのは、特筆すべき成果と言えよう。

これからの高等教育推進センターは、IRの観点からデータ活用の方法論を確立し、その見通しのもとで、各部局の提案を有効にPDCA（計画Plan→実行Do→検証Check→改善Action）に組み入れていくことが肝要である。「われわれの大学をよりよく理解する」という今回のカレッジ・コミュニティ調査が、「総合的な学習支援」の先取りとして、「われわれの大学をよりよくする」ための新たな基盤となることを大いに期待したい。

IV 参考文献、調査票等

・参考文献

- 関西学院大学総合教育研究室「われわれの大学をよりよく理解するために—カレッジ・コミュニティ調査第一次報告書」1977.3
- 関西学院大学総合教育研究室「われわれの大学をよりよく理解するために—カレッジ・コミュニティ調査基本報告書」(Ⅱ～ⅩⅥ 第2回～第16回 1980.3～2012.1)
- 佐々木薫・辻村徳治「学生生活の充実感に関する研究—第1回カレッジ・コミュニティ調査資料の再分析—」総研論集 第3号 関西学院大学総合教育研究室 1980
- 乾原正『自由記述』にみる学生の特質(第3回CCA調査)」総研ジャーナル33号pp.2-6 関西学院大学総合研究室 1983
- 佐々木薫・野田泰史・深井純「学生生活の学生変化に関する研究—第1回・第2回カレッジ・コミュニティ調査資料の比較分析—」総研論集 第4号 関西学院大学総合教育研究室 1983
- 乾原正「学生の視点—第5回カレッジ・コミュニティ調査自由記述—掲載にあたって」総研ジャーナル47号 pp.2-3 関西学院大学総合研究室 1987
- 遠藤惣一「学生生活への心理的不適応に関する研究—第4回カレッジ・コミュニティ調査資料の再分析—」総研論集 第8号 関西学院大学総合教育研究室 1987
- 乾原正・野田泰史・深井純「学生生活の学年変化に関する研究(Ⅱ) —第3回・第4回カレッジ・コミュニティ調査資料の比較分析—」総研論集 第9号 関西学院大学総合教育研究室 1987
- 「学生の視点—カレッジ・コミュニティ調査自由記述(4・3年生)—」総研ジャーナル39号 pp.2-28 関西学院大学総合教育研究室 1985
- 「続・学生の視点—カレッジ・コミュニティ調査自由記述(2・1年生)—」総研ジャーナル40号 pp.2-24 関西学院大学総合教育研究室 1985
- 「学生の視点—(第5回・第6回・第7回・第8回)カレッジ・コミュニティ調査自由記述—」総研ジャーナル(47号、54号、60号、63号) (1987、1989、1991、1993)
- Berdie F.R. College Expectations, Experience, and Perceptions, Journal of College Student Personnel. Nov.1966. pp.336-344
- Berdie F.R., Some psychometric characteristics of Cues, Educational and Psychological Measurement, 1967, 27, 55-66
- Berdie F.R., A university is a many-faceted thing, Personnel and Guidance Journal, Apr.1967. pp.768-775
- Berdie F.R., Changes in university perceptions during the first two college years., Journal of College personnel, Mar.1968
- Doman F.E., & Cristenssen G.M. Effects of a group life seminar on perceptions of the university environment, Journal of College Student Personnel, Jan.1976. pp.66-71

・集計結果URL

調査の集計結果はホームページをご覧ください。

「関西学院大学高等教育推進センター」→「研究助成・各種調査報告」→「調査」

URL : <http://www.kwansei.ac.jp/cephe/index.html>

第17回 (2012年度) カレッジ・コミュニティ調査

2012年9月

関西学院大学では、1976年からカレッジ・コミュニティ調査を実施し、みなさんの生活実態、目的意識、価値観などを調査し、分析結果を本学の教育・環境改善に役立てています。

あなたは、全学生から5人に1人の無作為抽出法で選ばれた調査対象者4,472名の1人です。今回の調査に率直な回答をお寄せいただくことを期待します。

調査の必要上、すべての質問にお答えください。

調査結果は「われわれの大学をよりよく理解するために—カレッジ・コミュニティ調査基本報告書—」として公表され、図書館で閲覧することができます。

なお、ご回答いただいた内容は全て統計的に処理されますので、みなさんの回答が他の人に知られることは絶対にありませんし、調査結果を調査の目的以外に使用することは決してありません。

回答の記入方法

- 1 回答欄が設けられていない質問では、自分の気持ちにもっとも近いものを選んで、その番号(数字)を○で囲んでください。
- 2 回答欄が設けられた質問では、選んだ番号(数字)を回答欄に記入してください。
- 3 回答のうち「その他」を選んだとき、あるいは「理由」などを具体的に述べる時は() 欄に記入してください。

提出期限 2012年10月31日(水)

提出方法 同封の返信用封筒で高等教育推進センターに郵送してください。
もしくは、直接、高等教育推進センター(西宮上ヶ原キャンパス 第四別館2F)のCCAボックスに投函してください。
万一、期限に遅れた場合も直接高等教育推進センターに提出してください。

問い合わせ先 関西学院大学高等教育推進センター
電話 0798 (54) 7420
メール CCA@kwansei.ac.jp

I 部

Q 1. あなたの今の学生生活は、全体としてどのくらい充実していると思いますか。1から5までの数字を選んで○印を付けてください。

し 非 常 に 充 実 し て い る	し か な り 充 実 し て い る	ま あ ま あ	し あ ま り 充 実 し て い ない	全 然 充 実 し て い ない
5	4	3	2	1

Q 2 - 1. あなたは今年度の履修登録において、各学期に何講時(コマ)登録しましたか(注:単位数ではありません)。また週平均でみて、実際には何講時くらい出席していますか。春学期と秋学期で数字が異なる場合は、その平均値を記入してください。

一週間に	<input type="text"/>	講時登録した。
一週間に	<input type="text"/>	講時くらい出席している。

Q 2 - 2. あなたは授業にはどのくらい出席しますか。

- 1 履修科目のすべて出席
- 2 必修科目はすべて出席し、他は出席をとる科目だけ出席
- 3 必修科目はすべて出席し、それ以外に好きな授業科目を選んで出席
- 4 必修科目のみ出席
- 5 その他 ()

Q 3. あなたが1週間(7日間)に、下記の項目ごとに費やす時間を記入してください。

①~⑥の活動時間のみを記入し、その他の活動については記入する必要はありません。

- | | |
|----------------------|--------|
| ① 大学の授業への出席 | () 時間 |
| ② 授業関連の学習(予習・復習・宿題) | () 時間 |
| ③ 授業外の学習(専門学校や習い事など) | () 時間 |
| ④ クラブ・サークル(課外活動時間など) | () 時間 |
| ⑤ 仕事・アルバイト | () 時間 |
| ⑥ 娯楽・交友 | () 時間 |

Q 4. あなたが在学中に身につけたい知識や能力を2つ以内で選んで○印を付けてください。

- | | | |
|---------------|---------------|-----------|
| 1 一般的な教養 | 2 専門知識 | 3 外国語運用能力 |
| 4 ITスキル | 5 プレゼンテーション能力 | 6 デベート能力 |
| 7 コミュニケーション能力 | 8 その他 () | |

Q 5. あなたが在学中にしておきたいことを2つ以内で選んで○印を付けてください。

- | | | |
|------------|------------|--------------|
| 1 海外留学 | 2 外国語研修 | 3 資格取得 |
| 4 ボランティア活動 | 5 インターンシップ | 6 クラブ・サークル活動 |
| 7 友人を作る | 8 その他 () | |

Q 6. あなたは次の諸活動をどのくらい重視していますか。

A～Fの各々について0から5までの数字を選んで○印を付けてください。

	非常に重視	かなり重視	まあまあ	あまり重視	全然重視	該当しない
A ゼミナール	5	4	3	2	1	0
B 言語(外国語)科目	5	4	3	2	1	0
C 必修科目	5	4	3	2	1	0
D 必修以外の科目	5	4	3	2	1	0
E クラブ・サークル	5	4	3	2	1	0
F アルバイト	5	4	3	2	1	0

Q 7-1. あなたの親しい友人は何人くらいいますか。

- 1 いない 2 1～3人 3 4～6人
4 7～9人 5 10人以上

Q 7-2. あなたはそれらの友人とどのくらいの頻度で連絡をとっていますか。

- 1 1日に何度も 2 1日に1度程度 3 2、3日に1度程度
4 1週間に1度程度 5 1ヶ月に1度程度

Q 8-1. あなたはスクールモットー“Mastery for Service”の意味を理解していますか。

- 1 まったく理解していない 2 あまり理解していない
3 まあまあ理解している 4 よく理解している

Q 8-2. あなたは関西学院が「“Mastery for Service”を体現する世界市民」の育成を使命としていることを知っていますか。

- 1 知っている 2 知らない

Q 9. あなたが現在もっとも大切だと感じているのは、どのような人々との関係ですか。次の中から大切な順に2つ選んで回答欄に番号で答えてください。ただし、ここで「仲間」というのは本学の学生とは限りません。

- 1 家族
2 出身地や出身校を共通にする仲間
3 寮や下宿の仲間
4 ゼミナールや研究室の仲間
5 同じ講義に出てノートや参考書を貸し借りしている仲間
6 クラブ・サークルの仲間
7 アルバイトの仲間
8 その他 ()

第1位

第2位

Q10-1. あなたが大学に進学しようと思ったのはなぜですか。次の中から入学時に重視した順に3つ選んで回答欄に番号で答えてください。

- | | | |
|-------------|------------|---------------|
| 1 教養や視野の拡大 | 2 人格形成 | 3 専門知識、技術の修得 |
| 4 学問研究 | 5 就職に有利 | 6 就職に必要な勉強をする |
| 7 将来の安定した生活 | 8 青春を楽しむ | 9 課外活動にはげむ |
| 10 皆が行くから | 11 家族がすすめる | 12 先生がすすめる |
| 13 特に理由はない | 14 その他 () | |

第1位

第2位

第3位

Q10-2. それでは、現在、あなたが重視しているのはどれですか。Q10-1の項目から、重視している順に3つ選んで回答欄に番号で答えてください。

第1位

第2位

第3位

Q11-1. あなたが関西学院大学を選んだのはなぜですか。次の中から重視した順に2つ選んで回答欄に番号で答えてください。

- | | |
|-------------------|-------------|
| 1 建学の精神に魅力があった | 2 就職実績が良い |
| 3 学部・学科の内容に興味があった | 4 資格取得につながる |
| 5 偏差値 | 6 キャンパスがきれい |
| 7 社会的な評判が良い | 8 周囲に勧められた |
| 9 自宅から通える | 10 その他 () |

第1位

第2位

Q11-2. あなたはどのような形で関西学院大学のことを知りましたか。あてはまるものをすべて選んでください。

- 1 両親や親類 2 高等学校や予備校の先生
3 友人や先輩 4 受験雑誌など
5 難易ランキング表 6 その他 ()

Q11-3. あなたの関西学院大学の志望順位は何番目でしたか。

- 1 第一志望 2 第二志望 3 それ以外

Q11-4. Q11-3で、2か3を選んだ方にお聞きします。

あなたの第一志望であった大学名をお聞かせください。

() 大学

また、その大学を第一志望としていた理由をお聞かせください。

()

Q12. あなたは兄弟姉妹や親しい友人・後輩に関西学院大学への受験や入学をどのくらい勧めますか。0から5までの数字を選んで○印を付けてください。

勧めめる 5 4 3 2 1 0 勧めない

Q13. 次の文章を読み、あなたの現在の学生生活を念頭に置いて、右側の回答欄に○印を付けて答えてください。「はい」、「いいえ」のいずれにも答えられない場合でも、どちらかというところだ、と思う方に答えてください。

	は い	いいえ
1 特別な理由もなく時々大学を休みたくなる	1	0
2 自分の尊敬する先生がいる	1	0
3 大学（授業）に遅刻・欠席することが多い	1	0
4 大学や研究室にいるよりも家や下宿にいる方が好きだ	1	0
5 大学生活の中でリーダーとして行動することが多い	1	0
6 今、所属している学部学科は自分にあっている	1	0
7 必修単位を落とすことがしばしばだ	1	0
8 学友たちと楽しくやっている	1	0
9 病気で大学を休みがちだ	1	0
10 必要な授業だと思っているのに、どうも足が向かない	1	0
11 自分をよく知ってくれている先生がいる	1	0
12 授業がむずかしすぎる	1	0
13 大学や研究室に出かけても何となく手持ちぶさたである	1	0
14 めんどうな勉強には根気がつづかない	1	0
15 他の大学や別の学部・学科に変わりたいと思うことがある	1	0

Q14. あなたは大学の先生とどのくらい接していますか。

A～Eの各々について0から5までの数字を選んで○印を付けてください。

	非常に	かなり	普通	あまり	ほとんどない	該当しない
A ゼミナールの先生	5	4	3	2	1	0
B 言語（外国語）の先生	5	4	3	2	1	0
C 学部の先生（A以外）	5	4	3	2	1	0
D 他学部の先生	5	4	3	2	1	0
E クラブや同好会の顧問の先生	5	4	3	2	1	0

Q15. 関西学院大学で人生の一時期を過ごすことは、あなたの将来にとってどのくらい役立つと思いますか。1から5までの数字を選んで○印を付けてください。

役立つと思う	かなり役立つと思う	いくらか役立つと思う	たいてい役立つと思う	ほとんど役立つと思う
5	4	3	2	1

Q16. 次にあげる暮らし方のうち、あなたが重視する順に3つ回答欄に書いてください。

1 経済的により豊かな暮らしをめざす	第1位 <input type="checkbox"/>	
2 地位と名誉を手に入れたい		
3 有名になりたい		第2位 <input type="checkbox"/>
4 社会の役に立つような事をする		
5 自分の技能や能力を伸ばしていく		
6 家族や友人といった人間関係を大切にしていく		第3位 <input type="checkbox"/>
7 心と体の健康を大切にする		
8 あくせくせずに、のんきにクヨクヨしないで暮らす		
9 その他（ ）		

Q17. あなたは次のA～Gのような状況の時、どのような手段で情報や資料を集めますか。下の1～9の選択肢の中から最初に試みる方法と、最初の方法が十分でない場合、次に試みる方法をそれぞれ回答欄に番号で答えてください。その方法が選択肢の中に無い場合は「9 その他」とし、その具体的な方法を括弧内に書いてください。

	最初に	次に
A 授業でレポートの課題が出た		
B レポートや論文を書いていて、行き詰った		
C 試験がある		
D 趣味に関する情報を入手したい		
E コンサートやイベント等について知りたい		
F よく知らないところに出かける		
G 旅行をする		

1 友人に聞く	2 先輩・先生に聞く	3 家族に聞く
4 インターネット（パソコン）で調べる	5 図書館へ行って調べる	
6 本屋へ行く	7 携帯電話・スマートフォンで調べる	
8 パンフレットを集める	9 その他（ ）	

Q18. あなたは次のA～Eの人たちと主にどのような手段でコミュニケーションを図っていますか。下の1～6の選択肢の中から頻度の高い順に2つまで回答欄に番号で答えてください。その方法が選択肢の中に無い場合は「6 その他」とし、その具体的な方法を括弧内に書いてください。

	1番目	2番目
A 親しい友人		
B 家族		
C クラスの仲間		
D 先生		
E ゼミ・サークルなどの仲間		

1 メール（パソコン）	2 メール（携帯・スマートフォン）	3 電話で話す
4 直接会って話す	5 SNS（フェイスブック、ツイッターなどのソーシャルメディア）	
6 その他（ ）		

F 1. あなたの所属学部はどこですか。

- 1 神学部 2 文学部 3 社会学部 4 法学部
 5 経済学部 6 商学部 7 理工学部 8 総合政策学部
 9 人間福祉学部 10 教育学部 11 国際学部

F 2. あなたは、現在何年生ですか。

- 1 1年生 2 2年生 3 3年生 4 4年生

F 3. あなたは、男性ですか女性ですか。

- 1 男性 2 女性

F 4. あなたの現在のGPAをお教えてください。

- 1 4.00～3.00 2 2.99～2.00 3 1.99～1.00 4 0.99～0.00

F 5. あなたは、どのような入試で関西学院大学に合格しましたか。

- 1 一般入学試験 2 センター利用入学試験 3 推薦入学試験
 4 スポーツ能力に優れた者を対象とした入学試験、または特別選抜入学試験(スポーツ活動)
 5 AO入学試験 6 帰国生徒入学試験 7 外国人留学生入学試験
 8 社会人入学試験 9 その他 ()

F 6. あなたは、いま、どのような所に住んでいますか。

- 1 自宅 2 親戚、知人の家
 3 下宿 4 ワンルームマンション
 5 アパート 6 関西学院の学生寮
 7 その他 ()

F 7. 通学所要時間は片道どのくらいでしょうか。

- 1 30分未満 2 30分以上1時間未満 3 1時間以上1時間30分未満
 4 1時間30分以上2時間未満 5 2時間以上

F 8. あなたの1ヶ月あたりの平均支出額はどのくらいですか。ただし、学費など大学へ納入する費用は含みません。寮生や下宿生は部屋代や食費を含めてください。

十 万 万 千

			0	0	0
--	--	--	---	---	---

円くらい

F 9-1. あなたは、いま学内、学外を問わず何かクラブ、サークルや団体に入っていますか。

- 1 入っている 2 入っていない

F 9-2. F 9-1において「1 入っている」と答えた人にお尋ねします。

A あなたが一番重視しているクラブや団体は、次のどれですか。

- | | |
|----------------------------|-----------------|
| 1 学内の公認団体 (6 総部2 自治会傘下の団体) | 2 学内の同好会 (登録団体) |
| 3 その他の学内団体 | 4 学外の団体 |

B その団体の活動内容は、次のどれですか。

- | | | |
|-------------|-----------|-----------|
| 1 体育・スポーツ活動 | 2 文化活動 | 3 学術・研究活動 |
| 4 趣味・レジャー活動 | 5 奉仕活動 | 6 宗教活動 |
| 7 政治活動 | 8 その他 () | |

C あなたは、クラブ、サークルなどの団体活動を通して、どのような能力が培われると思いますか。次の項目のうちあてはまると思うものを2つ選んでください。

- | | | | | |
|------------|-------|-------|-------|-------------|
| 1 協調性 | 2 行動力 | 3 社交性 | 4 忍耐力 | 5 企画力 |
| 6 創造力 | 7 統率力 | 8 指導力 | 9 判断力 | 10 自己主張する能力 |
| 11 その他 () | | | | |

II部

つぎに60の文章で大学が表現してあります。それぞれの文章に、正しい答、間違った答はありません。あなたが感じたままを、あまり字句にこだわらずに率直に答えてください。

「学生は……」の文章は、「一般にあなたの大学の学生は……」の意味です。

	そう思う	そう思う どちらかという と	どちらかという と そう思わない	そう思わない
1 学内の出来事については、すぐ知ることができる。	4	3	2	1
2 学内は、標識や方向案内図等によってわかり易くなっている。	4	3	2	1
3 学内は、この大学独特の雰囲気が強い。	4	3	2	1
4 無難なクラブやグループにいる方が、社会的に受け入れられる。	4	3	2	1
5 この大学は、より実用的、現実的教育をする傾向がある。	4	3	2	1
6 成績優秀な学生には、特別に奨学奨励の機会が与えられている。	4	3	2	1
7 学生は、リーダーシップ養成の機会に恵まれている。	4	3	2	1
8 この大学は、学生が不満を申し立て易いようになっている。	4	3	2	1
9 学内環境は、大学にふさわしく美しく便利に整っている。	4	3	2	1
10 大学は、学生の能力や個性を生かす機会を与えている。	4	3	2	1
11 学生の勉強意欲をかき立てるような教授方法を工夫し、実行している教師は少ない。	4	3	2	1

執筆者紹介(掲載順)

村田 治	高等教育推進センター長	はじめに
永井 良二	高等教育推進センター事務長補佐	I. 調査の概要
尾木 義久	入試部入試課長	II.1. 入学動機
		II.5. 大学生生活の充実度・評価
中 利徳	教務部次長	II.2. 大学生生活の実態
河鱒 一彦	人間福祉学部教授	II.2. 大学生生活の実態
田村 和彦	国際学部教授	II.2. 大学生生活の実態
磯辺 淳子	広報室課長	II.2. 大学生生活の実態
		II.3. 目的意識・価値観および適応
亀田 啓悟	総合政策学部准教授	II.2. 大学生生活の実態
小山 裕正	キャリアセンターキャリア支援課長	II.3. 目的意識・価値観および適応
澤谷 敏行	高等教育推進センター次長	II.3. 目的意識・価値観および適応
		II.7. 自由記述のまとめ
長沼加代子	言語教育研究センター次長	II.3. 目的意識・価値観および適応
		II.5. 大学生生活の充実度・評価
平田 薫	高等教育推進センター教育技術主事	II.3. 目的意識・価値観および適応
		II.6. 大学環境の認知
伊角 富三	学生部次長	II.4. 大学施設
魚住 英子	大学図書館利用サービス課総合主管	II.4. 大学施設
北村 昌幸	高等教育推進センター副長	III 全体のまとめ

われわれの大学をよりよく理解するために (XVII)

—第17回(2012年)カレッジ・コミュニティ調査基本報告書—

発行日 2013年3月31日

編集者 第17回CCA編集委員会

委員長 村田 治

発行 関西学院大学高等教育推進センター

〒662-8501 西宮市上ヶ原一番町1-155

電話 0798 (54) 7420

印刷 タカラ写真製版株式会社

〒551-0002 大阪市大正区三軒家東4-12-15

電話 06 (6552) 4931
